

# ⑥ 指導力向上

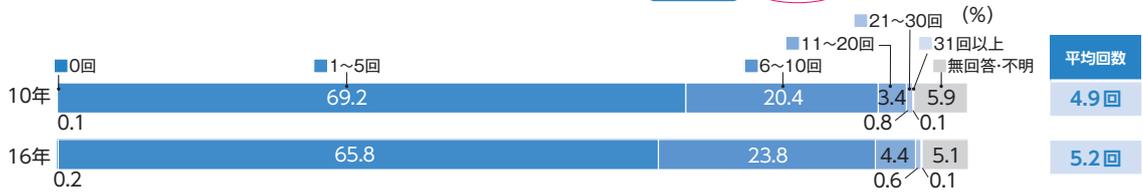
## 6-1 校内研修

「アクティブ・ラーニング」を校内研修として行っている高校は5割を超える。

校内研修の回数を経年でみると、ほとんど変化はみられなかった。校内研修領域をたずねたところ、10年に比べ、「教科指導」を選択した割合は少し増え、5割を超える。また、今回、追加項目である「アクティブ・ラーニング」は5割を超え、「教科指導」に次ぎ2位となる。公私別にみると、私立が公立より10ポイント以上高い項目は「ICT機器の活用」(14.9ポイント差)である。一方、公立が私立より10ポイント以上高いのは「特別支援教育」(29.0ポイント差)、「人権教育」(16.6ポイント差)、「主権者教育」(11.4ポイント差)である。公立が私立かによって、関心がある領域が異なることが分かった。

**Q** 今年度の校内研修の回数を教えてください(予定も含みます)。

図6-1 校内研修の回数(予定を含む)(経年比較[公立全体]) **高校** **校長**



注)回数は数字を直接記入してもらったもの。平均回数は、無回答・不明を除いて算出している。

**Q** 今年度、どのような領域について校内研修を行いますか(予定も含みます)。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

表6-1 校内研修の領域別実施率(予定を含む)(経年比較[公立全体)、学科別[公立)、入学時学力水準別[公立普通科)、私立全体) **高校** **校長**

※複数回答 (%)

	公立								私立	
	10年全体 (830)	16年全体 (1,110)	普通科 全体 (775)	入学時学力水準別				総合学科 全体 (90)	専門学科 全体 (212)	全体 (311)
				Aグループ (71)	Bグループ (365)	Cグループ (159)	Dグループ (124)			
教科指導	49.0	53.6	54.6	62.0	52.9	52.2	59.7	54.4	47.6	52.4
アクティブ・ラーニング (主体的・協働的な学習)		52.3	54.8	63.4	59.5	43.4	46.8	55.6	41.5	54.3
進路指導	46.4	46.4	52.9	69.0	58.9	43.4	37.9	37.8	25.5	45.0
特別支援教育	46.2	45.4	43.9	25.4	38.6	45.3	65.3	45.6	53.3	16.4
生徒指導	45.7	43.3	40.5	32.4	37.8	39.0	53.2	37.8	56.1	48.6
人権教育		42.3	40.1	42.3	41.9	42.1	32.3	44.4	51.4	25.7
ICT機器の活用	28.3	26.9	26.3	26.8	26.6	27.0	26.6	24.4	31.1	41.8
主権者教育		22.3	21.4	18.3	24.9	16.4	17.7	24.4	25.9	10.9
探究学習・課題解決型学習		10.8	11.4	33.8	12.3	6.3	4.0	13.3	7.1	18.6
次期学習指導要領*	26.5	10.0	10.8	18.3	11.2	10.1	8.1	15.6	5.7	18.6
中学校との連携	8.9	5.4	5.9	1.4	6.0	6.3	8.9	7.8	2.8	4.5
総合的な学習の時間	7.1	5.0	5.3	5.6	5.2	6.9	4.0	13.3	0.9	4.8
大学との連携	6.0	4.7	5.2	8.5	6.3	1.9	4.0	3.3	2.8	10.9
道徳	10.6	3.4	2.8	1.4	2.5	3.8	4.0	3.3	5.7	5.5

注1)項目は16年全体の値の高い順に並べている。注2)「その他」は省略している。

注3)■は項目別にもっとも高いもの、■はもっとも低いものを表す。注4)\*は10年では、「新学習指導要領」とたずねている。

注5)入学時学力水準は、「貴校に入学した平均的な生徒の中学校時代の成績(評定平均)」に対する校長回答による。評定平均はAグループ: 4.5~5.0点、Bグループ: 3.5~4.0点、Cグループ: 3.0点、Dグループ: 1.0~2.5点として公立普通科について分類した。

## 6-2 指導力向上

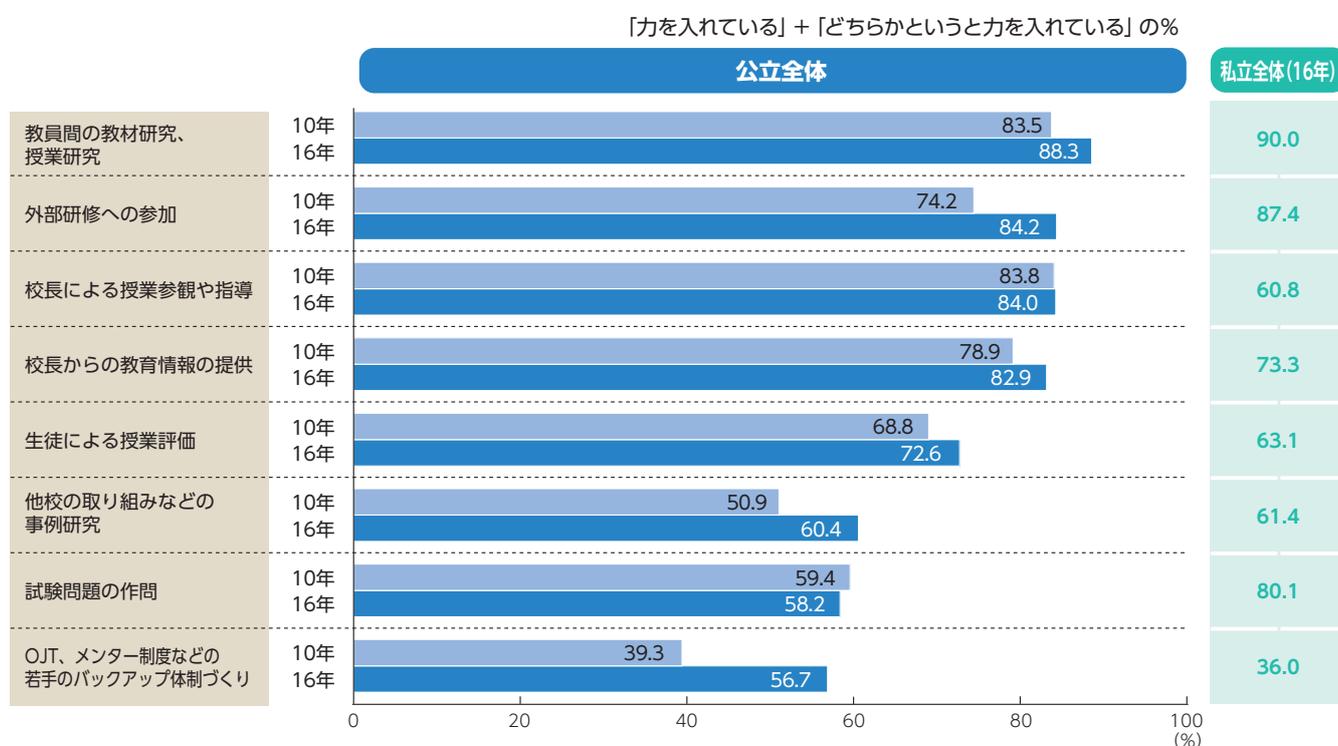
### 「若手のバックアップ体制づくり」に力を入れている高校は56.7%。

教員の指導力向上のため、「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」に「力を入れている」（「力を入れている」+「どちらかという力を入れている」と回答した高校は10年の39.3%から16年の56.7%と、17ポイント以上増加した。多くの項目で10年に比べ増加している。教員の指導力を高めるために様々な工夫がされていることがうかがえる。また、「OJT、メンター制度などの若手のバックアップ体制づくり」については、30歳未満の若手教員の比率が高い高校ほど、「力を入れている」と回答した割合が高いことが分かった。

Q

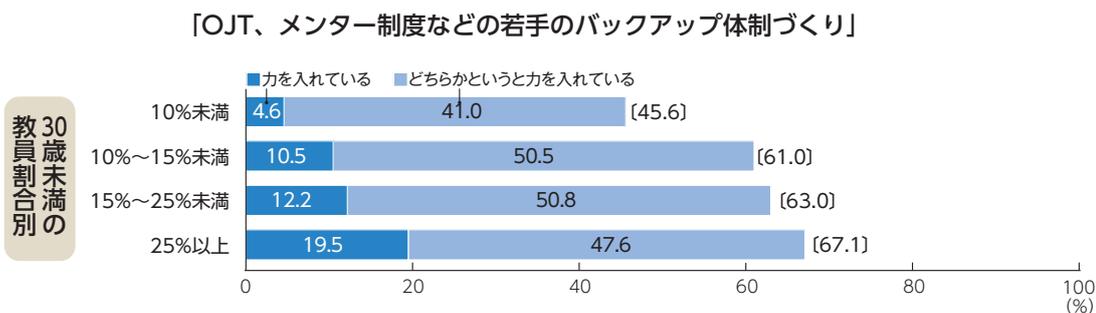
貴校では、教員の指導力を向上させるために、次のことにどれくらい力を入れていますか。

図6-2 教員の指導力向上のため、力を入れていること（経年比較〔公立全体、私立全体〕） **高校** **校長**



注) 選択肢は、「力を入れている」「どちらかという力を入れている」「どちらかという力を入れない」「力を入れない」「実施していない」の5択。

図6-3 教員の指導力向上のため、力を入れていること（30歳未満の教員割合別〔公立〕） **高校** **校長**



注1) 学校ごとに本務教員に占める30歳未満の教員の比率を算出し、「10%未満」(368名)、「10%～15%未満」(277名)、「15%～25%未満」(295名)、「25%以上」(82名)の4つに区分した。

注2) ( )内は「力を入れている」+「どちらかという力を入れている」の%。

6

指導力向上